

主要産地における平成27年産水稲の生育状況等について 第9報 (7月30日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成27年7月31日)

道府県	区分	生育状況等	
		育苗・田植進行状況・生育状況等 (自治体等公表資料の抜粋)	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等 (抜粋)
北海道	(生育)	<p>(全道) 生育はやや遅れている (遅3日)。生育に地域間差が見られる。草丈は58.6cmで平年より短く、葉数は10.3枚で平年並、葉数は667本/m²で平年並。(北海道農政部 7月15日現在)</p> <p>(空知) 7月上旬の低温により生育は遅れた (遅3日)。草丈は60.7cmで平年よりやや短く、葉数は10.5枚で平年並、葉数は654.7本/m²で平年並。(空知総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(石狩) 7月上旬の低温により、生育は緩慢となった (遅1日)。草丈は55.1cmで平年より短く、葉数は9.8枚で平年並、葉数は734本/m²が多い。(石狩総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(後志) 日照不足の影響もあり生育はやや停滞気味 (遅1日)。草丈は58.5cmで平年よりやや短く、葉数は10.0枚で平年並、葉数は654本/m²で平年並。幼穂形成期は7月4日 (後志総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(胆振) 生育はやや遅い (遅3日)。上旬に幼穂の形成は終了しており、下旬に止葉を迎える。草丈は49.5cmで短く、葉数は10.0枚で平年並、葉数は697本/m²が多い。(胆振総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(日高) 生育は平年並に推移。幼穂形成は7月上旬に終了。草丈は55.2cmで短く、葉数は10.1枚で平年並、葉数は667本/m²でやや多い。(日高振興局 7月15日現在)</p> <p>(渡島) 生育は平年よりやや早く推移 (早4日)。草丈は53.8cmで平年並、葉数は9.8枚で平年並、葉数は777本で平年並。幼穂形成期は7月6日。(渡島総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(樺山) 7月上旬の低温の影響で生育はやや遅れている (遅2日)。草丈は51.2cmで短く、葉数は10.0枚でやや少なく、葉数は674.6本/m²で平年並。(樺山振興局 7月15日現在)</p> <p>(上川) 生育は、平年より遅れて推移している (遅5日)。草丈は58.7cmで短く、葉数は10.5枚で平年並、葉数は678本/m²で平年並。幼穂形成期は6月28日で、(上川総合振興局 7月15日現在)</p> <p>(留萌) 生育は低温、日照不足により緩慢であり、平年に比べやや遅れているが、南部では8日以降の好天によりやや持ち直している (遅3日)。幼穂形成期は7月2日。草丈は57.1cmで短く、葉数は10.4枚で平年並、葉数は544本/m²で平年並。(留萌振興局 7月15日現在)</p> <p>(オホーツク) 生育は平年並 (遅1日)。幼穂形成期は7月3日。草丈は61.8cmでやや短く、葉数は9.0枚で平年並、葉数は589.9本/m²で平年並。(オホーツク総合振興局 7月15日現在)</p>	<p>・8月の葉いもち(既害)の発生量はやや多く、穂いもち病の発生期はやや遅く、発生量はやや多い予報。ヒメトビウンカ(既害)の発生量は平年並、アカヒゲホリミドリカスミカメ(既害)の発生量は平年並の予報。 (北海道病害虫防除所 7月28日公表)</p>
	(生育)	<p>・生育状況 (7月20日現在)</p> <p>(黒石) 「つがるロマン」の生育状況は、草丈が63.7cmで平年より7.6cm短く、株当たり葉数は32.7本で平年より3.9本多く、葉数は11.8葉で平年より0.2葉少なかった。「青天の霹靂」は「つがるロマン」と比べ、草丈が7.2cm長く、株当たり葉数は4.4本少なく、葉数は0.8葉少なかった。幼穂形成期の到達日は、「つがるロマン」が7月11日、「青天の霹靂」が7月9日で、「つがるロマン」は平年に比べ1日早かった。</p> <p>(十和田) 「まっしぐら」の生育状況は、草丈が69.1cmで平年より6.2cm短く、株当たり葉数は23.8本で平年より0.9本多く、葉数は11.2葉で平年より0.4葉多かった。幼穂形成期の到達日は7月9日で、平年に比べ1日早かった。 (青森県農業技術センター-農林総合研究所 7月20日現在)</p> <p>・7月15日現在の生育は、草丈が平年を下回り、葉数、葉数は上回っている。幼穂形成期は、「つがるロマン」で平年より2日早い7月11日、「まっしぐら」で3日早い7月9日となった。現在、低温に強い種ばかりとなっている。県内の出穂期は、「つがるロマン」で8月2日～6日頃、「まっしぐら」で8月2日～14日頃と予想される。</p> <p>「つがるロマン」(全県8地点)は、草丈55.7cm (平年比91%)、株当たり葉数26.5本 (同差+3.6本)、葉数11.3枚 (同差+0.3枚)、「まっしぐら」(全県13地点)は、草丈61.7cm (平年比95%)、株当たり葉数25.7本 (同差+3.4本)、葉数10.8枚 (同差+0.2枚)。 (青森県 7月22日付)</p>	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 北東北では、紋枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月の穂いもちの発生量はやや少なく、紋枯病は平年並と予想。 斑点米カメムシ類とコバネイロコはやや多く、フタオビコヤガ、ウンカ類及びコブメイガはやや少ないと予想。 (青森県病害虫防除所 7月29日公表)</p>
青森	(生育)	<p>・生育概況 (7月24日現在)</p> <p>農業研究センター (北上)</p> <p>「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも、草丈は平年より短く、葉数は平年並で、葉数は、「ひとめぼれ」では平年並で、「あきたこまち」では平年よりやや多くなっている。葉色 (SPAD値) は、「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも平年並となっている。減数分裂期は、「あきたこまち」では7月24日 (平年より1日早い) に達しており、「ひとめぼれ」は7月24日現在で達していない (平年は7月28日)。</p> <p>県北農業研究所 (軽米)</p> <p>「いわてっこ」の草丈は平年より短く、葉数は平年並で、葉数は平年を上回っている。葉色 (SPAD値) は概ね平年並となっている。減数分裂期は、7月20日 (平年より3日早い) に達した。 (岩手県農業研究センター 7月27日付)</p>	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 北東北では、紋枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p>
	(生育)	<p>・7月27日現在、7.779ha (水稲作付見込面積の12.0%) で出穂が確認され、本年の出穂始期 (県作付見込面積の5%で出穂) は7月26日で、平年 (8月3日) より8日程度早まっている。 (宮城県 7月28日付)</p> <p>(大河原) 7月21日の管内の生育調査は、葉数はやや多めで、葉数は平年並、葉色はやや低くなっている。葉数がやや多く、生育はやや早めに経過している。平坦な地域で田植の早かった「ひとめぼれ」や「まなむすめ」は7月末、山間部の「やまのしずく」は8月初め頃の出穂が見込まれる。極晩生の「つや姫」でも、幼穂形成期に達した。</p> <p>(仙台) 7月21日現在、生育ステージが平年より3～4日程度早まっている。7月20日の生育調査の結果、「ひとめぼれ」(3地点)の草丈は平年比99～105%、葉数は平年比101～107%、葉数は平年並-0.1～0.4枚、葉色 (GM値) は平年並-1.8～0.5。「ササニシキ」(2地点)の草丈は平年比90～95%、葉数は平年比103～109%、葉数は平年並-0.4枚、葉色 (GM値) は平年並-1.9～-1.4。(仙台農業改良普及センター 7月28日付)</p> <p>(大崎) 草丈はほぼ平年並で、m²当たり葉数は平年より多く、葉数はほ場によりばらついていて、葉色は平年より淡い傾向があるものの、生育は順調。減数分裂に達しているほ場も見られる。出穂期は平坦地域 (二本木ひとめぼれ、古川ササニシキ) は8月2日頃、丘陵地域のひとめぼれは8月9日頃、まなむすめは8月4日頃、山間部のやまのしずくは8月6日頃と予測される。(大崎農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(美里) 7月21日現在、移植栽培は平年より1週間程度生育が早く進んでいる。草丈・葉数は平年並～多く、葉数は平年より多く、幼穂長は平年より長い。管内全体の出穂期は7月29日頃と見込まれる。直播栽培は幼穂形成が始まっている。 (美里農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(栗原) 7月21日現在、草丈は平年並 (平年比100%)、葉数は平年並 (平年比103%)、葉数は平年より多く (平年並+1.0枚)、葉色は平年並 (平年比101%)。幼穂長等から生育は平年より5日前後進んでいる。5月4日移植および5月9日移植の調査までは、7月下旬に出穂期になる見込み。5月18日移植の調査までは減数分裂期を迎えた。「つや姫」は幼穂形成期になり、出穂期は8月10日頃と推測される。(栗原農業改良普及センター 7月23日付)</p> <p>(登米) 7月21日現在、平年と比べて草丈はほぼ平年並、葉数はほ場によってバラツキがあるが概ね平年並、葉数はやや多く、葉色はバラツキがある。移植栽培のほ場の幼穂長から、減数分裂期は7月24日頃、出穂期は8月5日頃とみられている。登米市内での中品種の減数分裂期は概ね7月14日頃 (7月9～19日) と推定され、出穂期は7月29日頃 (7月25日～8月2日) になるものとみられる。(登米農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(石巻) 7月21日現在、葉数は平年並～やや少なく (平年比97%～87%)、葉色 (SPAD値) は井内 (ササニシキ) ほ場を除いて平年を下回り、葉色期値以下となった。幼穂長は11～156mmで、平年より播種・田植の遅い様生町寺崎 (ササニシキ) ほ場を除いて、平年よりかなり長くなった。5月上旬田植のほ場ではすでに減数分裂期に達し、ひとめぼれほ場では数日前に減数分裂期となったと考えられる。(石巻農業改良普及センター 7月23日付)</p> <p>(本吉) 7月21日調査の結果、生育は平年より進んでいる状況。気仙沼市の生育調査は「ひとめぼれ」では、草丈・葉数・葉色は平年並、葉数は平年よりやや多い。南三陸市の生育調査は「ササニシキ」では、草丈はやや短く、葉数・葉数は多く、葉色は平年並。三陸分地区の出穂期は8月3日～12日と予測。平年より4日程度早まる見込み。 (本吉農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(亶理) 6月10日調査 (ひとめぼれ) の結果、葉数は前年を上回り、葉数も前年より多くなる傾向がみられる。田植後の気温が高く推移したことから、土壌の還元が進み、生わたり未熟たい肥を施用した水田では還元障害による水稲の活着不良や生育抑制が見られる。(亶理農業改良普及センター 6月17日付)</p>	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月上旬までの葉いもちの発生量は平年並、穂いもちの発生期はやや早く (8月第3半旬) 発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年並、稲こし病の発生量はやや少なく、斑点米カメムシ類の発生時期は早く (7/26～7/31) 発生量はやや多い予報。 (宮城県病害虫防除所 7月29日公表)</p> <p>・注意喚起-斑点米カメムシ類が県内全域で発生時期が早く、発生量が多い予報。 (宮城県病害虫防除所 7月29日公表)</p>
宮城	(生育)	<p>・7月27日現在、7.779ha (水稲作付見込面積の12.0%) で出穂が確認され、本年の出穂始期 (県作付見込面積の5%で出穂) は7月26日で、平年 (8月3日) より8日程度早まっている。 (宮城県 7月28日付)</p> <p>(大河原) 7月21日の管内の生育調査は、葉数はやや多めで、葉数は平年並、葉色はやや低くなっている。葉数がやや多く、生育はやや早めに経過している。平坦な地域で田植の早かった「ひとめぼれ」や「まなむすめ」は7月末、山間部の「やまのしずく」は8月初め頃の出穂が見込まれる。極晩生の「つや姫」でも、幼穂形成期に達した。</p> <p>(仙台) 7月21日現在、生育ステージが平年より3～4日程度早まっている。7月20日の生育調査の結果、「ひとめぼれ」(3地点)の草丈は平年比99～105%、葉数は平年比101～107%、葉数は平年並-0.1～0.4枚、葉色 (GM値) は平年並-1.8～0.5。「ササニシキ」(2地点)の草丈は平年比90～95%、葉数は平年比103～109%、葉数は平年並-0.4枚、葉色 (GM値) は平年並-1.9～-1.4。(仙台農業改良普及センター 7月28日付)</p> <p>(大崎) 草丈はほぼ平年並で、m²当たり葉数は平年より多く、葉数はほ場によりばらついていて、葉色は平年より淡い傾向があるものの、生育は順調。減数分裂に達しているほ場も見られる。出穂期は平坦地域 (二本木ひとめぼれ、古川ササニシキ) は8月2日頃、丘陵地域のひとめぼれは8月9日頃、まなむすめは8月4日頃、山間部のやまのしずくは8月6日頃と予測される。(大崎農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(美里) 7月21日現在、移植栽培は平年より1週間程度生育が早く進んでいる。草丈・葉数は平年並～多く、葉数は平年より多く、幼穂長は平年より長い。管内全体の出穂期は7月29日頃と見込まれる。直播栽培は幼穂形成が始まっている。 (美里農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(栗原) 7月21日現在、草丈は平年並 (平年比100%)、葉数は平年並 (平年比103%)、葉数は平年より多く (平年並+1.0枚)、葉色は平年並 (平年比101%)。幼穂長等から生育は平年より5日前後進んでいる。5月4日移植および5月9日移植の調査までは、7月下旬に出穂期になる見込み。5月18日移植の調査までは減数分裂期を迎えた。「つや姫」は幼穂形成期になり、出穂期は8月10日頃と推測される。(栗原農業改良普及センター 7月23日付)</p> <p>(登米) 7月21日現在、平年と比べて草丈はほぼ平年並、葉数はほ場によってバラツキがあるが概ね平年並、葉数はやや多く、葉色はバラツキがある。移植栽培のほ場の幼穂長から、減数分裂期は7月24日頃、出穂期は8月5日頃とみられている。登米市内での中品種の減数分裂期は概ね7月14日頃 (7月9～19日) と推定され、出穂期は7月29日頃 (7月25日～8月2日) になるものとみられる。(登米農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(石巻) 7月21日現在、葉数は平年並～やや少なく (平年比97%～87%)、葉色 (SPAD値) は井内 (ササニシキ) ほ場を除いて平年を下回り、葉色期値以下となった。幼穂長は11～156mmで、平年より播種・田植の遅い様生町寺崎 (ササニシキ) ほ場を除いて、平年よりかなり長くなった。5月上旬田植のほ場ではすでに減数分裂期に達し、ひとめぼれほ場では数日前に減数分裂期となったと考えられる。(石巻農業改良普及センター 7月23日付)</p> <p>(本吉) 7月21日調査の結果、生育は平年より進んでいる状況。気仙沼市の生育調査は「ひとめぼれ」では、草丈・葉数・葉色は平年並、葉数は平年よりやや多い。南三陸市の生育調査は「ササニシキ」では、草丈はやや短く、葉数・葉数は多く、葉色は平年並。三陸分地区の出穂期は8月3日～12日と予測。平年より4日程度早まる見込み。 (本吉農業改良普及センター 7月22日付)</p> <p>(亶理) 6月10日調査 (ひとめぼれ) の結果、葉数は前年を上回り、葉数も前年より多くなる傾向がみられる。田植後の気温が高く推移したことから、土壌の還元が進み、生わたり未熟たい肥を施用した水田では還元障害による水稲の活着不良や生育抑制が見られる。(亶理農業改良普及センター 6月17日付)</p>	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月上旬までの葉いもちの発生量は平年並、穂いもちの発生期はやや早く (8月第3半旬) 発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年並、稲こし病の発生量はやや少なく、斑点米カメムシ類の発生時期は早く (7/26～7/31) 発生量はやや多い予報。 (宮城県病害虫防除所 7月29日公表)</p> <p>・注意喚起-斑点米カメムシ類が県内全域で発生時期が早く、発生量が多い予報。 (宮城県病害虫防除所 7月29日公表)</p>
	(生育)	<p>(鹿角) 7月25日の水稲定点生育調査では草丈が68.6cmで平年 (74.8cm) より短く、葉数はm²当たり579本で平年 (491本/m²) より多く、葉数は12.7葉で平年 (12.2葉) より0.5ほど進んでおり、葉色 (SPAD値) は39.1で平年 (37.4) よりやや濃くなった。平年より水稲の生育は4日程度進んでいる。(7月28日付)</p> <p>(秋田) 水稲の生育はほぼ順調。出穂期は平年よりやや早まる見込み。(7月24日付)</p> <p>(由利) 早い地区では、減数分裂期に入っている。葉色や生育の状態を見ながら、追肥作業が行われている。(7月24日付)</p> <p>(山本) 7月24日現在の水稲定点調査ほ場 (管内9地点) における生育状況は、草丈66.9cm (平年比88%)、葉数523本/m² (同比109%)、葉数12.2 (同差+0.6)、葉色39.9 (同比104%) となっている。(7月24日付)</p> <p>(北秋田) 7月15日現在の生育状況は、草丈が短く (平年比97%)、葉数が多く (同比114%)、葉色が淡い (同比92%) 状況。葉数から見た生育の進みは、平年より1～2日程度早まっている。(7月10日付)</p> <p>(仙北) 7月15日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈56.8cmで短く (平年比89%)、葉数596本/m²で多く (平年比116%)、葉数は11.1葉 (平年並+0.1葉) で平年並、葉色 (SPAD値) は39.9 (平年比100%) で平年並となった。(7月17日付)</p> <p>(平鹿) 7月15日に行った水稲定点調査 (あきたこまち11か所) の結果は、草丈が58.9cm (平年比91%)、葉数が636本/m² (平年比125%)、葉数11.2葉 (平年並+0.3葉)、葉色40.6 (平年比95%) で、草丈が短く葉数が多くなっている。葉数から見た生育は平年よりやや進んでいる。(7月17日付)</p> <p>(雄勝) 7月15日の定点調査結果 (あきたこまち8地点平均) では、葉数11.0葉 (平年並+0.1)、草丈57.8cm (平年比91%)、m²あたり葉数640本 (同122%)、葉色は41.5 (同96%) となっている。(7月16日付) (秋田県農林政策課)</p>	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 北東北では、紋枯病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月の穂いもちの発生量はやや少なく、紋枯病の発生量は多く、斑点米カメムシ類の発生量は多いと予想。 (秋田県病害虫防除所 8月30日公表)</p>

	生育状況等	
山形	<p>(生育) ・7月21日現在、幼種の生育状況からみた出穂期は、「はえぬき」は平年並から3日早く、「つや姫」「あきたこまち」は平年より1日早い予想。平坦部「はえぬき」は、草丈はやや短く、莖数はやや多く、葉色はやや多く、葉色は平年並の良好な稲姿になっている。草丈は65.2cm(平年比96%)、莖数は678本/m²(平年比117%)、葉数は11.8枚(平年並+0.2枚)、葉色は40.0(平年並-0.1)。「つや姫」の出穂は、農業総合研究センター(山形市のりが丘)では8月9日頃(平年8月10日)、水田農業試験場(鶴岡市藤島)では8月11日頃(平年8月12日)と見込まれている。草丈は65.7cm(平年比93%)、莖数は555本/m²(平年比111%)、葉数は11.5枚(平年並+0.3枚)、葉色は36.4(平年並-1.7)。(オールやまがた米づくり日本一運動、県産米ブランド推進課 7月21日付)</p> <p>(穀上) 7月21日現在の生育診断のはえぬきの生育は、草丈が短く、莖数が多く、葉数がやや多い、葉色がやや濃く推移しており、出穂期は平年よりやや早まる見込み。依然として圃場間の生育の差は大きい。出穂予想は、平坦部の「はえぬき」は8月6日(平年比-2日)、「つや姫」は8月11日(平年並)、中山間の「あきたこまち」は7月31日(平年比-2日)(県上総合支庁 7月23日付)</p> <p>(東山村山) 7月21日現在の「つや姫」の生育状況は、出穂予想が平年よりやや早く、8月10日前後となる見込み。(村山総合支庁山形農業技術普及課 7月23日付)</p> <p>7月21日現在の生育状況は、平年に比べて草丈がやや短く、莖数はやや多くなっている。「はえぬき」(山形市長苗代)の生育は、草丈は平年比93%、莖数は平年比102%、葉数は平年並+0.1枚、葉色(SPAD値)は平年並+4.8。「つや姫」(山形市南石川)の生育は、草丈は平年比99%、莖数は平年比111%、葉数は平年並+0.3枚、葉色(SPAD値)は平年並-1.3。出穂予想(平坦部)は、「はえぬき」が8月5~7日頃、「つや姫」が8月10日頃の見込み。特に晩生品種で幼種の生育がすすみ、平年より1~2日早く出穂すると予想される。(村山総合支庁山形農業技術普及課 7月23日付)</p> <p>(北村山) 高温の影響により、平年と比べて、莖数は0.4葉程度多く、幼種の生育等からみて、生育は2日ほど進んでいる。全粒に莖数は多く、刈取水田も身受けられる。草丈や葉色は圃場によって、ばらつきが大きい。北村山平坦部の予想出穂期は「あきたこまち」8月2~5日、「ひとめぼれ」8月6~8日、「はえぬき」8月7~10日、「つや姫」8月10~13日、「コシヒカリ」8月11~14日、中山間の予想出穂期は、平坦部の1~3日後とみられる。(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月23日付)</p> <p>7月20日現在の「つや姫」の生育状況は、出穂予想が8月10~13日(平年より2日早い)、生育指標との比較は、草丈はやや短く、莖数は多く、葉色はやや濃い。(村山総合支庁北村山農業技術普及課 7月23日付)</p> <p>(鶴岡田川) 7月21日現在の生育診断では、「はえぬき」の草丈は平年並、莖数が平年と比べて多く、葉色は平年より下がった。平坦部では12葉目が展開中で、平年よりも生育が2日程度進んでいる。早生品種「あきたこまち」では、出穂期は7月28日(平年より1日早く、中晩熟「ひとめぼれ」の出穂期は8月2日、「はえぬき」は8月1日、平年より2~3日早い予想。晩生「つや姫」「コシヒカリ」の出穂期は、8月11日、平年並~1日早い予想。(庄内総合支庁農業技術普及課 7月22日付)</p> <p>7月21日生育調査の結果「つや姫」の莖数はやや多く、葉色は淡めに経過している。幼種からみた出穂予想は、上清水は8月10日(平年8月12日)、押切は8月10日(平年8月12日)と、平年より2日程度早くると見込まれる。管内における「つや姫」の出穂期は、8月7日~12日頃(平年よりやや早い)の見込み。(庄内総合支庁農業技術普及課 7月22日付)</p> <p>(酒田飽海) 7月10日現在の生育診断の生育は、草丈、葉数は平年並、莖数は概ね確保されている。葉色はやや淡い状況。水田農業試験場(鶴岡市藤島)の幼種調査による出穂予想は、中生晩熟品種(ひとめぼれ、はえぬき)は平年より1~2日、晩生品種(つや姫、コシヒカリ)は平年並の見込み。(酒田農業技術普及課 7月13日付)</p> <p>7月10日現在の「つや姫」の生育は、草丈は平年並~短く、莖数は平年並~多く(800本以上あり)、葉数は平年並~やや多く、葉色は平年並~濃い。(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月13日付)</p> <p>(西置賜) 6月30日現在、生育は2日程度進んでいる。草丈は平年並~やや短く、莖数はやや多い、葉数は平年並~2日程度早い、葉色は平年並~やや濃い。生育診断のはえぬきの生育は、草丈は平年比91~99%、莖数は平年比113~119%、葉数は平年並+0.0~0.2枚、葉色(SPAD値)は平年並-0.8~1.8。「つや姫」の生育は、草丈は平年比95~104%、莖数は平年比109%、葉数は平年並+0.1~0.3枚、葉色(SPAD値)は平年並+0.7~0.9。(オールやまがた米づくり日本一運動置賜地域本部 7月3日付)</p>	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月の種いもちの発生時期はやや早く、発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は多い予報。(山形県病害虫防除所 7月29日公表)</p> <p>・注意報一斑点米カメムシ類の発生量が県下全域で多い予報。(山形県病害虫防除所 7月23日公表)</p>
福島	<p>(生育) ・出穂期は、やや早いと予想されている。(福島県病害虫防除所 7月24日付)</p> <p>(会津・喜多方) 草丈は平年並みからやや短く、莖数は少なく、葉色は淡い傾向。6月下旬に入り葉色が回復し始めており、分けつ確保が期待される。生育はやや早まっている。(福島県喜多方農業普及所ほか 7月7日付)</p> <p>・6月30日現在の生育調査では、草丈が平年並から長く、莖数が平年並から多く、主稈葉数が平年並から多くなっている。5月15日補えの本部(郡山)では、草丈が平年より短く、莖数が平年より少なくなっている。(福島県農林水産部 7月7日付)</p> <p>(郡山) 6月19日現在の23ほ場の調査結果では、平坦部では草丈が平年並み、莖数は平年並みだが、ほ場によってバラツキがみられる。湖南地区は草丈は平年並み、莖数は平年より多くなっている。(郡山市農作物生産対策協議会 6月19日付)</p>	<p>・東北では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月の種いもちの発生時期はやや早く、発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年並、稲こうじ病の発生時期はやや早く、発生量は平年並と予報。斑点米カメムシ類の発生時期はやや早く、発生量は多いと予報。イネツトムシの発生量はやや多いと予報。(福島県病害虫防除所 7月24日公表)</p>
茨城	<p>(生育) (水戸市) 7月21日現在、「あきたこまち」の出穂期は7月15日(平年より1日早かった)。「コシヒカリ」の出穂始は平年より2日早いことから、出穂期は平年より2日早いと予測される。平年と比較して、草丈は「あきたこまち」でやや短く、「コシヒカリ」で並、商品種ともに莖数はやや少なく、葉色は並、5月11日に移植した「コシヒカリ」の出穂期は、幼穂長からみて平年より2日早いと予測される。草丈、莖数は平年並、葉色はやや濃い。(7月23日付)</p> <p>(龍ヶ崎市) 7月23日現在、4月27日移植の「あきたこまち」の出穂期は7月13日(平年より2日早かった)。「コシヒカリ」の出穂期は7月21日(平年より4日早かった)。平年に比べ商品種とも、草丈・莖数は並、葉色はやや濃い。商品種とも主稈葉数が平年より1枚程度少ない。5月7日移植の「あきたこまち」の出穂期は7月18日(平年並)。「コシヒカリ」は出穂始が7月22日(平年より2日早く、出穂期は平年より2日早い)と見込まれる。平年に比べ、草丈・莖数は商品種とも並、葉色は「あきたこまち」がやや淡く、「コシヒカリ」が濃い。(7月23日付)</p> <p>(茨城県農業総合センター農業研究所)</p>	<p>・関東では、いもち病、結葉枯病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月28日公表)</p>
栃木	<p>(生育) ・7月21日調査結果 早期栽培(コシヒカリ、16か所平均) 草丈はやや高い(平年比102%)、莖数は平年並(同比99%)で、葉色は0.1濃いことから、生育診断値(葉色×莖数)は平年比101%で平年並、葉齢は平年並、幼穂長は13.4cmで平年より7.4cm長く、出穂期は7月28日(平年(8月2日)より6日早い)。 普通栽培(あさひの夢、3か所平均) 草丈は50.6cmで平年比90%と低く、莖数は454本/m²で平年比98%とやや少ない。葉齢は9.9で平年より0.3葉少なく、葉色は4.4で平年より0.4濃い。生育診断値(葉色×莖数)は1,980で平年比91%と小さい。(栃木県 7月24日付)</p>	<p>・関東では、いもち病、結葉枯病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月28日公表)</p>
埼玉	<p>(生育) ・7月6日現在の生育状況(県内全般) 普通栽培の移植は、平年より早く作業が進み概ね終了した。早期、早稲栽培の生育は、センター内同様、草丈、莖数は概ね平年並みで、高温により幼穂分化はやや早まっている。早期栽培の中干しも概ね順調に行われた。普通栽培は、活着は良好で初期生育も順調である。 (センター内生育相) 早期栽培(5月1日種 コシヒカリ)は、草丈、莖数とも平年を上回って推移していたが、移植60日後の調査では草丈、莖数とも概ね平年並となっている。葉位の進展は平年よりやや早く推移している。 早稲栽培(5月20日種 彩のかがやき)は、草丈、莖数とも概ね平年並に推移している。葉位の進展は平年よりやや早い。生育は概ね順調。 普通栽培(6月25日種 キヌヒカリ)は、苗の充実度はやや低かったが、活着は良好で、生育は順調。(埼玉県農業技術研究センター 7月6日現在)</p>	<p>・関東では、いもち病、結葉枯病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月のいもち病、結葉枯病の発生量は多く、もみ枯菌類の発生量はやや多く、紋枯病、セジロウカ、斑点米カメムシ類の発生量は平年並の予報。(埼玉県病害虫防除所 7月30日公表)</p>
千葉	<p>(生育) ・4月20日頃に移植した「ふさおとめ」「ふさこがね」は、平年より5~7日程度早く出穂期を迎え、成熟期は8月6日頃からと予測される。梅雨入り以降は、平年と比較して気温が低く、日照時間が少ない時期があり、地域や品種による生育進捗の差が見られる。4月20日頃に移植した「コシヒカリ」は、早いところは平年より5日程度早く出穂期を迎えると予測され、5月1日頃に移植した「コシヒカリ」は平年並の7月23日頃に出穂期を迎えると予測される。(千葉県農林水産部 7月15日付)</p>	<p>・関東では、いもち病、結葉枯病の発生が「多い」と予報。(農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・向こう1か月間の発生量は、いもち病はやや多く、紋枯病、こま葉枯病は平年並、斑点米カメムシ類は平年並~やや多く、イネツトムシは多く、ヒメトビウカ、イネアオムシ、イネツトムシは平年並、セジロウカはやや少ない予報。(千葉県農林総合研究センター 7月8日公表)</p>

生育状況等	
新潟	<p>・7月27日現在の生育状況は、コシヒカリの出穂期は、8月6日で平年並からやや早い見込み。こしいぶきの出穂期は、7月28日で平年より程度早まる見込み。コシヒカリの葉色は指標値に比べ「並」だが、新潟と差で淡く、村上、新津、十日町で濃く、地域間・ほ場間で差が生じている。 (新潟県農林水産部 7月28日付)</p> <p>・7月21日現在のコシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈は「並」、葉数は「多く」、葉色は「並」。地域別には、葉数は南魚沼・上越で特に多く、葉色は新潟で濃く、新津、魚沼で濃い状況。 県内15か所の平均値(田植期の平均は5月13日)は、葉数12.4葉(指標値差+0.5葉)、草丈76cm(同比100%)、葉数448本/m²(同比110%)、葉色(SPAD値)32.0(同差-0.6) (「新潟米」情報センター 7月23日付)</p> <p>□</p> <p>(生育) (岩 船) 7月27日現在のコシヒカリの生育は、葉色は並～やや濃く(適正な範囲)、出穂期は平年より3日程度早い見込み(ほ場間差大きい)。調査ほ場(6地点)の予想出穂期は、8月4日～12日の見込み。 (村上農業普及指導センター 7月27日現在)</p> <p>(新発田) 7月27日現在のコシヒカリは、草丈は84cmで指標比106% (やや長)、葉数は417本/m²で指標比108% (やや多)、葉数は13.3葉で指標比+1.1葉(多)、葉色は葉緑素計33.4で指標差-0.1(並)。指標値に比べ、草丈・葉数ともやや大きい相違となっている。先回までは緑色傾向にあったが、指標値並に回復している。出穂期は、平年より2日程度早まる見込み。(新発田農業普及指導センター 7月27日付)</p> <p>(新潟) 7月27日現在のコシヒカリの生育は、葉色(SPAD値)が、管内生育調査ほ(37地点)の平均値で、32.1(指標値比-1.1)でやや濃い。出穂期は8月4日頃の見込み。(新潟農業普及指導センター 7月27日付)</p> <p>(新津) 7月21日現在のコシヒカリの生育状況は、指標値と比べて草丈は並、葉色は並～やや濃い。出穂期は、コシヒカリは8月5日、こがねもちら8月2日の予測。(新津農業普及指導センター 7月22日付)</p> <p>(巻) 7月27日現在のコシヒカリの生育は、草丈は指標比「並」、葉色は指標比「濃い」。出穂期は、平年並から1日程度早い見込み。早生は種揃い～傾種期で、平年に比べ2～3日程度早くなった。(巻農業普及指導センター 7月27日付)</p> <p>(三条) 7月27日現在、コシヒカリでは、葉色は回復しつつあるが、まだ一部でSPAD値30を下回る極端に淡いほ場もある。こしいぶきは、全般に7月25日頃出穂期となった。初期生育の良否で出穂に差がある。 (三条農業普及指導センター 7月27日付)</p> <p>早生品種の生育は地域差・ほ場間差が大きい。出穂期は、ゆきん子舞は7月25日、こしいぶきは7月26日、わたぼうしは7月22日、五百方は7月21日と予想。(三条農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(長岡) 7月27日現在、コシヒカリは、現時点で出穂8日前頃(5月10日田植)と推測される。こしいぶきは、出穂期を迎えているほ場もあり、平年より3日程度早い見込み。コシヒカリの葉色値(SPAD)は、全体平均ではほぼ指標値並となっているが、一部で葉色の低下が大きいほ場がある。(長岡農業普及指導センター 7月27日付)</p> <p>(柏崎) 7月27日現在のコシヒカリの生育状況は、平坦地6か所平均の葉色は指標値並だが、一般ほ場では、葉色の低下が著しいほ場も見られる。(柏崎農業普及指導センター 7月28日付)</p> <p>(上越) 7月27日現在の「コシヒカリ」の生育(指標値比)は、草丈は長く(110%)、葉数は多く(123%)、葉数は多く(+1.0葉)、葉色は並(葉色値+0.4)。出穂は平年より2日早い予想。「こしいぶき」の生育は、平年より2日程度早く出穂している。葉数はやや多く、葉色は濃くなっている。(上越農業普及指導センター 7月27日付)</p> <p>(糸川川) 7月21日現在のコシヒカリの生育は平年と比べて、草丈はやや短～並、葉数は多い、葉色はやや多い、葉色は淡い～並、という状況。各品種とも出穂期は平年に比べてやや早くなる見込み。 (糸川川地域振興局農林振興部 7月22日付)</p> <p>(佐渡) 7月21日現在のコシヒカリの生育は平年並に進んでおり、出穂期は平年並の予想。草丈は平年並、葉数はやや多い、生育進度は平年並、葉色は平年並、出穂期予測(国仲平坦部)は、8月8日の見込み。 (佐渡農業普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(魚沼) 7月9日現在の管内の生育状況は、草丈は平年並～やや短く、葉数は平年並～やや多く、葉色は平年並、葉色は平年並～やや濃い。地域差が大きく、特に葉色では、平場を中心に葉色の濃いほ場が見られる。出穂期は、平年並(前年より1日程度遅い)の見込み。(山北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月16日付)</p> <p>(十日町) 指標値に比べ、草丈は並、葉数はやや多く、葉色は並、葉色は並～やや濃い、緑色がムラになっているほ場や緑色が緩慢なほ場も多く見られる。(十日町地域振興局農林振興部 7月21日付)</p> <p>(南魚沼) 7月21日現在のコシヒカリの生育状況は、草丈は70cm(指標値比93%)でやや短く、葉数は482本/m²(同比123%)で多く、葉色はSPAD値34.2(同差+0.7)で平年並、葉数は12.3葉(同差+0.9)でやや多い。幼穂の伸長がやや早まっていることから、出穂期についても1～2日程度早まると見込まれる。(南魚沼農業普及指導センター 7月21日付)</p>
富山	<p>・北陸では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・7月後半の葉いもち・紋枯病の発生量は平年並、穂いもち・稲こうじ病の発生量は平年並～やや少く、斑点米カメムシ類の発生量はやや多い～多、ニコメイチュウ・セジロウカ・ツマグロヨコバイの発生量はやや少ない予報。 (新潟県畜産防除所 7月16日公表)</p>
富山	<p>・生育観測データ(7月21日現在) (コシヒカリ) 草丈、葉齢は平年並、葉数は平年よりやや多く推移している。葉色は平年よりやや濃くなり、施肥体系別では、肥効調節のほとんどのほ場で前回調査時より濃くなり、分蘗のほ場では淡くなった。幼穂形成期は、平年並の7月13日となった。出穂期は、平年並みの8月4日頃と見込まれる。 (てんたかく) 5月15日5品種の出穂期は平年より3日早い、7月20日と見込まれる。成熟期は、平年より3日程度早い、8月25日頃と見込まれる。 (富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月21日付)</p> <p>(生育) ・直播情報(7月17日現在) ・湛水土中直播栽培(カルバー) 生育は、草丈、葉数は平年並、葉色はやや濃く推移している。幼穂形成期は、平年並の7月17日。出穂期は、平年並の8月7日頃と見込まれる。 ・湛水表面直播栽培(鉄) 葉齢は昨年よりやや遅れており、草丈はやや短く、葉数、葉色は平年並に推移している。幼穂形成期、出穂期は、それぞれ昨年より2日程度遅い7月20日頃、8月10日頃と見込まれる。 ・乾田V溝直播栽培 近年に比べて葉齢が遅れており、草丈は短く、葉数は多く、葉色はやや濃い。幼穂形成期と出穂期は、それぞれ近年並の7月21日頃、8月12日頃と見込まれる。 (富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月17日付)</p>
石川	<p>・北陸では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・7月中旬から下旬の斑点米カメムシ類の発生量は多く、穂いもちの発生量はやや少く、紋枯病の発生量はやや多い予報。セジロウカ、コブノメイガは平年並、ツマグロヨコバイはやや多く、フタオヒコヤガはやや少ない予報。</p> <p>・注意報一雑草地における斑点米カメムシ類の発生は、平年の3.3倍と多い。特に、飛翔性カメムシ類は平年の3.8倍と多い。今後、活動が活発になると推測される。 (石川県農林総合研究センター 7月8日公表)</p>
石川	<p><7月28日調査結果> 出穂期 ゆめみつほの出穂期は、平年に比べ3～5日早く、加賀平均で7月16日、能登平均で7月19日となった。コシヒカリは、生育の早い加賀地域で出穂期となっているほ場が見られ、平年に比べ加賀地域で3日程度、能登地域で1日程度早いと予想される。 草丈 コシヒカリは413本/m²、平年比106% (加賀地域106%、能登地域105%)と平年並。 (石川県農林総合研究センター 7月28日調査)</p>
福井	<p>・北陸では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・水田周辺雑草地における斑点米カメムシ類の生息密度は、平年、前年より非常に多く、特にカスミメシ類の発生が多くなっている。 (福井県農業試験場 7月10日公表)</p>
福井	<p>・7月16日水稲調査の結果は、コシヒカリは草丈が短く、葉数は平年並で、幼穂形成期もほぼ平年並の7/12日。 ハナエチゼンは出穂期を迎えており平年並～4日早い。 (水田農業レベラアップ委員会技術普及部会 7月17日付)</p>
長野	<p>・7月27日現在、豊科定点圃場(種苗5月15日植)では、「あきたこまち」は7月24日、「美山錦」は7月26日に出現期となった。早生種の出穂期は「平年より5日早」であった。「コシヒカリ」は今週から飛び種が見られ、平坦地では8月5日前後に出現期を迎えたと見られる。「コシヒカリ」の草丈は57cm(平年比116%)、葉数は711本/m²(同比110%)。「あきたこまち」の草丈は55cm(平年比110%)、葉数は669本/m²(同比124%)。平坦地の早生種(あきたこまち、美山錦など)は、刈り取り開始や成熟期は平年、昨年より早まると予想される。これから出穂を迎えるコシヒカリも同様の傾向になると見られる。 (松本農業改良普及センター 平成27年作物技術普及情報第12号)</p> <p>・7月中旬～8月中旬の葉いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量は平年並～やや多い、ニコメイチュウの発生量はやや少く、ツマグロヨコバイ・セジロウカ・イネツトムシの発生量は平年並、イナゴ・カメムシ類の発生量は平年並～やや多い予報。 (長野県畜産防除所 7月15日公表)</p>

生育状況等	
滋賀	<p>・7月21日時点の生育状況は、草丈は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年並であった。葉数は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年より多かった(平年比で約1割多い)。葉色は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年よりやや淡かった。葉数は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年並であった。</p> <p>「コシヒカリ」の幼穂形成期は7月5日で平年より1日早く、出穂期は7月29日で平年と同日であった。「秋の詩」の幼穂形成期は7月17日で平年より1日早かった。 (滋賀県農業技術振興センター 7月30日付)</p> <p>(生育) 「みずかがみ」の生育状況(7月27日現在)</p> <p>4月下旬移植は、出穂期は7月16日頃がピークであった。成熟期のピークは8月18日前後になると予測される。 5月上旬移植は、出穂期は7月21日頃がピークであった。成熟期のピークは8月23日前後になると予測される。 5月中旬移植は、7月末に出穂期を迎えている。成熟期のピークは8月下旬～9月初旬になると予測される。 5月下旬移植は、出穂期は8月上旬になる見込み。 (滋賀県農業技術振興センター 7月30日付)</p>
兵庫	<p>・6月26日現在、県全体では、葉齢は平年並～やや進展が遅い、草丈は平年並～やや長い。葉数は平年よりやや少ない。県北では、葉齢は平年並。草丈はやや低い。葉数は平年よりかなり多い。 (兵庫県農政環境部 6月30日付)</p> <p>(生育)</p>
岡山	
広島	
山口	<p>・台風第11号の影響を受け、葉の先が黄化しているところが見られるが、各品種とも生育への影響は小さいと考えられる。5月頃の「コシヒカリ・ひとめぼれ」では、種ばらみ期になっている。きぬむすめ・ヒノヒカリでは、6月中旬～7月上旬の低温の影響で葉数がやや少ない目だったが、7月中旬以降の分けつの発生は順調。 (長門県農事所農業部、JA長門大津、7月21日付)</p> <p>(生育) ・JAあぶらんど萩管内では、7月11日に早期栽培のコシヒカリで出穂を確認。本年は生育が順調に進み、昨年よりも3日早い出穂。このコシヒカリの新米は8月下旬には県内量販店の店頭に並ぶ予定。 (やまぐち農林水産ネット 7月17日付)</p>
愛媛	<p>・7月は、5月以降に田植えした種早生品種のコシヒカリ、あきたこまちは種肥の時期にあたる。その適期を、幼穂長を目安に判断するよう指導。普通期水稲では浅水管理を基本とし、根の健全化を図るよう指導。 (愛媛県農林水産研究所 7月2日公表)</p> <p>(生育)</p>
高知	<p>・早期栽培の作柄は、登熟がやや不良であるが「平年並み」が見込まれる。(農林水産省 7月15日現在)</p> <p>7月9日現在</p> <p>・早期稲 出穂期は、4月6日植え南国そだちは6月18日、4月6日植えコシヒカリは6月29日、4月14日植えコシヒカリは7月5日。いずれの品種、作型とも平年より1～3日早くになっている。ただし、出穂前後の低温寡照のため、「出穂始め」～「穂揃期」までの期間が長くなっている。</p> <p>・普通期稲 移植後、低温寡照で経過したため、平年より草丈が低く、葉数は少なく、生育進度(葉齢)が遅れている。 (高知県農業技術センター 7月16日付)</p>
福岡	<p>・7月24日現在における水稲の生育は、草丈は平年並で、葉数は萎つくして平年より5%多く、ヒノヒカリは7%少なく、元気つくしは前年並～やや少ない、生理葉数は0.3～0.5葉少なく、生育は遅れている。 (福岡県農林業総合試験場 7月27日付)</p> <p>(生育)</p>
熊本	

・近畿では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。
(農林水産省 7月28日公表)

・穂いもち、白葉枯病の発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや多い予報。
三カメイガ、ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類、イチモンジセセリの発生量は平年並、セジロウンカ、コブメイガの発生量はやや少ない予報。
(滋賀県病害虫防除所 7月22日公表)

・近畿では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。
(農林水産省 7月28日公表)

・向こう1か月間の発生量は、いもち病、紋枯病は平年並、綿葉枯病、ヒメトビウンカはやや多く、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類は平年並、トビロウンカ、イネツトムシ、コブメイガはやや少ない予報。
(兵庫県病害虫防除所 7月22日公表)

・台風第11号による被害
畦畔崩壊等 118ヶ所
(洲本市、三木市、淡路市、加東市、佐用町等)
(兵庫県 7月21日付)

・中国では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。
中国の一部地域では、ヒメトビウンカの発生が「多い」と予報。
(農林水産省 7月28日公表)

・中国では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。
中国の一部地域では、ヒメトビウンカの発生が「多い」と予報。
(農林水産省 7月28日公表)

・8月上旬までの穂いもちの発生量は多く、葉いもちの発生量は中部で多く、南部ではやや多い予報。
セジロウンカは平年並、斑点米カメムシ類はやや少ない予報。
(広島県西部農業技術指導所 7月29日付)

・注意報—いもち病の発生量が県下全域で多い予報
(広島県農林水産局 7月29日付)

・中国では、斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予報。
中国の一部地域では、ヒメトビウンカの発生が「多い」と予報。
(農林水産省 7月28日公表)

・注意報—いもち病が、県内全域で7月下旬～8月下旬に、多く発生することが予想される。
(山口県 7月27日付)

・四国では、いもち病の発生が「多い」と予報。
(農林水産省 7月28日公表)

・8月の東予・中予では葉いもち、穂いもちの発生量は平年並、南予では葉いもちの発生量はやや多～多く、穂いもちの発生量はやや多く、紋枯病の発生量は平年並～やや多い予報。
斑点米カメムシ類の発生量は平年並～やや多く、ツマグロヨコバイ、イネツトムシの発生量は平年並、トビロウンカの発生量は平年並～やや少なく、イネアオムシの発生量はやや少～平年並、コブメイガ、セジロウンカの発生量はやや少ない予報。
(愛媛県病害虫防除所 7月30日公表)

・四国では、いもち病の発生が「多い」と予報。
(農林水産省 7月28日公表)

・早期稲(乳熟期～黄熟期)の斑点米カメムシ類の発生状況について、県中西部で少発生、中央部は平年並、東部部でやや多発生、西部では多発生であり、発生密度の高いほ場も見られた。
(高知県病害虫防除所 7月30日公表)

・九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。
(農林水産省 7月28日公表)

・注意報—葉いもちの発生状況について、県全体で平年・前年より多く確認された。発生程度は地域やほ場による差が大きく、一部の中山間地や平坦地などで増加している。
(福岡県病害虫防除所 7月24日付)

・九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。
(農林水産省 7月28日公表)

・8月
早稲水稲
穂いもちの発生量は平年より多く、斑点米カメムシ類の発生量は平年並、トビロウンカの発生量は平年並の予報。
普通期水稲
葉いもちの発生量はやや多く、トビロウンカの発生量は平年並の予報。
(熊本県病害虫防除所 7月30日公表)

・注意報—早稲水稲の穂いもちの発生について、中山間地で出穂期以降に多く発生すると予想。
(熊本県病害虫防除所 7月30日公表)

生育状況等	
宮 崎	<p>・早期栽培の作柄は、4月から5月中旬にかけての日照不足、6月の低温・日照不足等の影響により穂数及び全もみ数が少ないと見込まれることから、「不良」が見込まれる。 (農林水産省 7月15日現在)</p> <p>(生育)</p> <p>・早期水稲 登熟期～成熟期にある。今年は長期間の低温・日照不足で稲が軟らかく根の活力も低下しているため、倒伏や登熟不良などの被害が発生しやすい状況にある。</p> <p>・普通期水稲 分けつ期～幼穂形成期にある。 (宮崎県営農支援課 7月14日付)</p> <p>・平成27年度早期米生育状況(6月下旬) 早期米の生育状況は、幼穂形成期～出穂期を迎えている。平年より、生育進度が早く推移している。5月は降水量も少なく、日照時間が多かったため、生育スピードが速まったが、6月上旬に降水量が平年よりも多く、全体的に日照時間が少なく推移しているが、依然生育進度は早く、順調に生育している。 (JA宮崎経済連ホームページ 7月6日付)</p> <p>・「宮崎県産早期米産地情報」6月15日現在の生育ステージ (県 全体) 幼穂形成期～出穂期。草丈が平年並、茎数はやや少なく、葉齢はやや少なく、生育進度は早い。6月上旬が平年より降水量が多く、日照時間が少なく推移したが、影響はほとんどなく順調に生育している。出穂期は早いところで6月17日頃、遅いところでも6月末頃とやや早い進度で生育している。</p> <p>(中部地区) 穂ばらみ期～出穂期。生育は平年より5日早い。6月上旬の平均気温は、ほぼ平年並みで推移し、降水量は平年を大きく上回っており、日照時間はやや少なめで推移している。平年に比べ草丈がやや長く、茎数や葉齢はやや少なくなっている。出穂最盛期は、6月20日頃と見込まれる。</p> <p>(南那珂地区) 穂ばらみ～出穂期。生育は平年より5日早い。降水量が平年よりも多く、日照時間が少なかったが、5月の気象条件がよかつたため、生育は順調。予想出穂期は6月17日頃と見込まれる。</p> <p>(児湯地区) 幼穂形成期～出穂期。生育は平年より3日程早い。日照時間が少なく、降水量が多く推移し、平均気温もやや低めだが、5月の気象条件がよかつたため、生育は順調。出穂最盛期は6月21日頃と見込まれる。</p> <p>(東臼杵南部地区) 幼穂形成期～減数分裂期。生育は平年より3日程早い。生育は良好であり、平年より草丈は長く、茎数も平年より多い状況。幼穂長は管内平均5.0cmとなっており、6月下旬頃が出穂であると思われる。 (JA宮崎経済連ホームページ 7月6日付)</p>
鹿 児 島	<p>・早期栽培の作柄は、4月から5月中旬にかけての日照不足、6月の低温・日照不足等の影響により穂数及び全もみ数が少ないと見込まれることから、「不良」が見込まれる。 (農林水産省 7月15日現在)</p> <p>・九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月の普通期水稲の病害虫の発生は、葉いもちはやや多く、紋枯病、ツマグロヨコバイ、セジロウカ、トビイロウカ、コブノメイガは平年並、ヒメトビウンカはやや少の予報 (宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月27日公表)</p> <p>・九州では、いもち病の発生が「多い」と予報。 (農林水産省 7月28日公表)</p> <p>・8月のいもち病、紋枯病の発生量は平年並、トビイロウカの発生量はやや多く、コブノメイガの発生量はやや少ない予報 (鹿児島県病害虫防除所 7月29日公表)</p>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標				収穫量（主食用） 26年度	作況指数 26年度
		参考					
		平成27年度	前年度との比較	増減率	自主的取組参考値（深堀）		
全 国	<p>（8月1日～8月31日の見直し）</p> <ul style="list-style-type: none"> 北・東・西日本では、期間の前半は晴れる日が多く、気温がかなり高くなる場所があり、北・東日本では向こう1か月の気温も高い見込み。東・西日本では太平洋高気圧の張り出しが強く、向こう1か月の日照時間は多く、降水量は平年並か少ない見込み。北日本では、降水量と日照時間はほぼ平年並の見込み。（気象庁 7月30日発表） （8～10月の3か月間の見直し） 8月 気温は全国的にほぼ平年並、降水量は北日本と東日本日本海側で、平年並か多い見込み。 9月 気温は全国的にほぼ平年並、降水量は北日本では、平年並か少ない見込み。 10月 気温は北・東日本で平年並か高く、降水量は東日本太平洋側、西日本、沖縄・奄美では、平年並か少ない見込み。（気象庁 7月24日発表） <p>※北・東日本では、7月24日発表の3か月予報の8月の見直しに比べ、日本付近で太平洋高気圧の勢力が強くなり、気温が高い可能性が大きい予報に変わった。東日本日本海側では、降水量が少なくなる可能性が大きい予報に変わった。（気象庁 7月30日発表）</p> <ul style="list-style-type: none"> エルニーニョ現象が続いている。今後、冬にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高い。（気象庁 7月10日公表） 	7,510,000	▲ 140,000	▲ 1.8	7,390,000	7,882,000	101
北 海 道	<p>北海道地方の8月1日～8月31日の1か月間は、期間の前半は晴れる日が多く、向こう1か月の気温は平年並か高い見込み。期間の前半は高気圧に覆われやすく、後半は気圧の谷の影響を受けやすく、降水量、日照時間はともにほぼ平年並の見込み。（札幌管区気象台 7月30日発表）</p>	547,330	▲ 6,810	▲ 1.2	538,580	597,200	107
青 森	<p>東北地方の8月1日～8月30日の1か月間は、期間の前半は晴れる日が多く、気温がかなり高くなる見込み。向こう1か月の気温は高く、降水量、日照時間はほぼ平年並の見込み。（仙台管区気象台 7月30日発表）</p>	242,460	▲ 4,540	▲ 1.8	238,580	257,400	104
岩 手	同上（仙台管区気象台 7月30日発表）	271,210	▲ 4,330	▲ 1.6	266,880	287,700	105
宮 城	同上（仙台管区気象台 7月30日発表）	348,620	▲ 14,010	▲ 3.9	343,050	379,600	105
秋 田	同上（仙台管区気象台 7月30日発表）	417,540	▲ 15,500	▲ 3.6	410,860	453,000	104
山 形	同上（仙台管区気象台 7月30日発表）	344,500	▲ 14,070	▲ 3.9	338,990	380,700	105
福 島	同上（仙台管区気象台 7月30日発表）	339,550	▲ 8,870	▲ 2.5	334,130	350,600	104
茨 城	<p>関東甲信地方の8月1日～8月30日の1か月間は、期間の前半は晴れる日が多く、気温がかなり高くなる見込み。向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込み。（気象庁 7月30日発表）</p>	337,370	▲ 4,180	▲ 1.2	331,980	396,200	105
栃 木	同上（気象庁 7月30日発表）	298,690	▲ 10,640	▲ 3.4	293,920	313,700	100
埼 玉	同上（気象庁 7月30日発表）	151,270	▲ 1,410	▲ 0.9	148,850	169,800	102
千 葉	同上（気象庁 7月30日発表）	246,490	▲ 2,790	▲ 1.1	242,550	325,300	104
新 潟	<p>北陸地方の8月1日～8月30日の1か月間は、期間の前半は太平洋高気圧の張り出しが強く、平年に比べ晴れる日が多い見込み。向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込み。（新潟地方気象台 7月30日発表）</p>	521,290	▲ 14,350	▲ 2.7	512,960	576,000	101
富 山	同上（新潟地方気象台 7月30日発表）	185,650	▲ 6,690	▲ 3.5	182,680	193,100	101
石 川	同上（新潟地方気象台 7月30日発表）	123,630	▲ 2,770	▲ 2.2	121,650	123,400	98
福 井	同上（新潟地方気象台 7月30日発表）	125,460	▲ 2,670	▲ 2.1	123,460	126,000	98
長 野	<p>関東甲信地方の8月1日～8月30日の1か月間は、期間の前半は晴れる日が多く、気温がかなり高くなる見込み。向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込み。（気象庁 7月30日発表）</p>	194,000	▲ 2,640	▲ 1.3	190,900	195,800	96

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t		%	t		
滋 賀	・近畿地方の8月1日～8月30日の1か月間は、期間の前半は、太平洋高気圧の日本付近への張り出しが強いため、平年に比べ晴れの日が多く、気温がかなり高くなる可能性がある。 平均気温は高く、降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込み。 <u>（大阪管区気象台 7月30日発表）</u>	160,450	▲ 2,930	▲ 1.8	157,880	157,100	97
兵 庫	同上（大阪管区気象台 7月30日発表）	180,440	▲ 1,490	▲ 0.8	177,560	177,800	97
岡 山	・中国地方の8月1日～8月30日の1か月間は、1週目と2週目は暖かい空気に覆われやすく、 気温は平年並か高くなり、向こう1か月を平均した気温も、平年並か高い見込み。 降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込み。 <u>（広島地方気象台 7月30日発表）</u>	158,550	▲ 1,640	▲ 1.0	156,020	153,300	94
広 島	同上（広島地方気象台 7月30日発表）	129,970	▲ 160	▲ 0.1	127,890	123,300	95
山 口	・九州北部地方（山口県含む）の8月1日～8月30日の1か月間は、期間のはじめは太平洋高気圧の張り出しが強く、平年に比べ晴れの日が多い見込み。平均気温はほぼ平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間も平年並か多い見込み。 <u>（福岡管区気象台 7月30日発表）</u>	108,760	▲ 2,060	▲ 1.9	107,020	103,800	96
愛 媛	・四国地方の8月1日～8月30日の1か月間は、気温は期間の前半を中心に平年並か高く、 平均気温も平年並か高い見込み。降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込み。 気温は期間の前半を中心に平年並か高い見込みです。 <u>（高松地方気象台 7月30日発表）</u>	73,920	▲ 570	▲ 0.8	72,740	73,000	98
高 知	同上（高松地方気象台 7月30日発表）	50,070	20	0.0	49,270	55,600	95
福 岡	・九州北部地方（山口県含む）の8月1日～8月30日の1か月間は、期間のはじめは太平洋高気圧の張り出しが強く、平年に比べ晴れの日が多い見込み。平均気温はほぼ平年並、降水量はほぼ平年並、日照時間も平年並か多い見込み。 <u>（福岡管区気象台 7月30日発表）</u>	182,470	▲ 1,910	▲ 1.0	179,550	176,400	96
熊 本	同上（福岡管区気象台 7月30日発表）	189,310	▲ 610	▲ 0.3	186,290	180,500	97
宮 崎	・九州南部地方の7月18日～8月17日の1か月間は、平年に比べ晴れの日が多い見込み。 平均気温はほぼ平年並、降水量は平年並か少なく、日照時間は多い見込み。 <u>（鹿児島地方気象台 7月30日発表）</u>	93,600	▲ 870	▲ 0.9	92,100	84,600	98
鹿 児 島	同上（鹿児島地方気象台 7月30日発表）	111,070	▲ 470	▲ 0.4	109,290	102,300	95

参考資料:

[平成27年産水稻の西南暖地における早期栽培等の作柄概況\(7月15日現在\)\(農林水産省\)](#)

[平成27年産米の都道府県別の生産数量目標について\(農林水産省\)](#)

[平成26年産水稻陸稲の収穫量\(農林水産省\)](#)

[平成27年度病害虫発生予報第5号\(農林水産省\)](#)

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月17日)、農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月17日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月17日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月17日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月17日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月17日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月17日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月17日)、
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月17日)、農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道留萌振興局 7月17日)、
農作物の生育と農作業の進ちよく状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月17日)、
病害虫発生予察情報第9号8月子報(北海道病害虫防除所 7月28日)、

[作況調査報告\(7月20日現在\)\(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月22日\)](#)、[稲作生産情報第6号\(青森県 7月22日\)](#)、

[平成27年度病害虫発生予報第5号\(8月子報\)\(青森県病害虫防除所 7月29日\)](#)

[平成27年度水稻生育定期調査結果 No.6\(7月24日現在\)\(岩手県農業研究センター 7月27日\)](#)、

[平成27年産水稻の出穂状況について\(7月27日現在\)\(宮城県農林水産部 7月28日\)](#)、

[平成27年産仙南稲作情報\(第6号\)\(宮城県大河原農業改良普及センター 7月29日\)](#)、[仙台稲作情報第5号\(仙台農業改良普及センター 7月28日\)](#)、

[平成27年産塩稲作技術情報第8号\(宮城県大崎農業改良普及センター 7月29日\)](#)、[平成27年産美里地区の稲作情報第7号\(宮城県美里農業改良普及センター 7月22日\)](#)、

[栗原の稲作通信平成27年第6号\(栗原農業改良普及センター 7月24日\)](#)、[登米地域の稲作通信第7号\(登米農業改良普及センター 7月22日\)](#)、

[稲作情報Vol.6\(石巻農業改良普及センター 7月23日\)](#)、[稲作情報Vol.8\(本吉農業改良普及センター 7月22日\)](#)、

[平成27年度稲作情報第2号\(亶理農業改良普及センター 6月17日\)](#)

[平成27年度発生予察情報第7号\(概要版\)\(宮城県病害虫防除所 7月22日\)](#)、[平成27年度発生予察情報注意報第3号\(宮城県病害虫防除所 7月29日\)](#)、

[生育状況の情報\(秋田県ホームページ\)「主枝チンネ」](#)と<http://www.e-komachi.jp/> 7月24日)。

[平成27年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第4号\(8月子報\)\(秋田県病害虫防除所 7月30日\)](#)、

[米づくり技術情報No.6\(山形県産米ブランド推進課 7月22日\)](#)、[稲作だより第10号\(最上総合支庁 7月23日\)](#)、[つや姫情報第3号\(最上総合支庁 7月2日\)](#)、

[酒田飽海日本一米づくり情報第8報\(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月13日\)](#)、[酒田飽海つや姫情報第6号\(庄内総合支庁酒田農業技術普及課 7月13日\)](#)、

[おいしい米づくり情報第10号・つや姫だより第7号\(庄内総合支庁農業技術普及課 7月22日\)](#)、

[つや姫通信第5号\(村山総合支庁農業技術普及課 7月23日\)](#)、[おいしい米づくり情報第8号\(村山総合支庁農業技術普及課 7月23日\)](#)、

[おきたま米づくり情報No.6\(置賜総合支庁産業経済部西置賜農業技術普及課 7月3日\)](#)、

[稲作だより第7号・つや姫だより第6号\(村山総合支庁産業経済部 北村山農業技術普及課 7月23日\)](#)、

[平成27年度農作物有害動物発生予察情報発生予報第5号\(8月\)\(山形県病害虫防除所 7月29日\)](#)、

[平成27年度農作物有害動物発生予察情報注意報第2号\(山形県病害虫防除所 7月23日\)](#)、

主要な農作物の生育情報平成27年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、郡山市農作物生産対策協議会(郡山市園芸畜産振興課 6月26日)、

[稲作情平成27年度第4号\(福島県喜多方農業普及所ほか 7月7日\)](#)、[平成26年度病害虫発生予察情報発生予報第4号\(7月\)\(福島県病害虫防除所 7月24日\)](#)、

[農研速報\(水稻の生育状況 7月21日現在 水戸市\)\(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月23日\)](#)、

[農研速報\(水稻の生育状況 7月23日現在 熊ヶ崎市\)\(茨城県農業総合センター農業研究所作物研究室 7月23日\)](#)、

[平成27年度水稻生育診断予測事業速報No.5\(栃木県 7月24日\)](#)、

[平成27年度水稻の生育概況vol.2\(埼玉県 7月7日\)](#)、[平成27年度病害虫発生予報第4号\(8月子報\)\(埼玉県病害虫防除所 7月30日\)](#)、

[水稻の生育状況と当面の対策第4報\(千葉県農林水産部 7月15日\)](#)、[平成27年度病害虫発生予報第4号\(千葉県病害虫防除所 7月8日\)](#)、

[水稻の生育状況と今後の管理対策第7号\(新潟県農林水産部 7月28日\)](#)、[水稻の生育状況\(1新潟県山情報センター 7月23日\)](#)、

[水稲米生育速報\(7月27日現在\)\(村上農業普及指導センター\)、新発田地域水稲育成速報No.7\(新発田農業普及指導センター 7月27日\)](#)、

[新潟稲作速報No.7\(新潟農業普及指導センター 7月27日\)](#)、[水稲生育速報No.6\(新潟農業普及指導センター 7月29日\)](#)、

[FAX稲作速報\(三条農業普及指導センター 7月27日\)](#)、[FAX稲作速報\(追加情報\)\(三条農業普及指導センター 7月1日\)](#)、

[水稲生育速報\(長岡農業普及指導センター 7月27日\)](#)、[稲作情報No.8\(南魚沼農業普及指導センター 7月21日\)](#)、

[稲作管理情報7\(相模農業普及指導センター 7月28日\)](#)、[7/21稲作生育速報\(十日町地域\)\(十日町地域振興局農業振興部 7月21日\)](#)

[水稲生育速報\(7月27日\)\(上越農業普及指導センター\)](#)、[平成27年度糸魚川売れる米づくり水稲生育情報No.6\(糸魚川農業普及指導センター 7月22日\)](#)、

[平成27年度 稲作生育速報No.6\(佐渡農業普及指導センター 7月21日\)](#)、

[稲作情報\(IA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月16日付\)](#)、[水稲生育速報\(磐前農業普及指導センター 7月27日\)](#)、

[平成27年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号\(7月後半の発生予想\)\(新潟県病害虫防除所 7月16日\)](#)、

[TACS情報第9号\(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月21日\)](#)、[直播情報第6号\(富山県農業技術課広域普及指導センター 7月17日\)](#)、

[病害虫発生予報第4号\(富山県農林水産総合技術センター 7月1日\)](#)、

[平成27年産水稻の生育状況と今後の対策\(水稲生育診断技術確立調査-9号\)\(石川県農林総合研究センター 7月29日\)](#)、

[平成27年度病害虫発生予報第4号\(石川県農林総合研究センター 7月8日\)](#)、

[稲作情報No.11\(福井県水田農業イノベーション委員会技術普及部会 7月17日\)](#)、[平成27年農作物病害虫発生予察予報第5号\(福井県農業試験場 6月30日\)](#)、

[病害虫防除だよりNo.292\(福井県農業試験場 7月10日\)](#)、

[平成27年度作物技術普及情報第12号\(長野県松本農業改良普及センター\)](#)、[病害虫発生予報第4号\(長野県病害虫防除所 7月15日\)](#)、

[平成27年度水稻生育診断情報No.4\(滋賀県農業技術振興センター 7月30日\)](#)、[平成27年病害虫発生予報第6号\(滋賀県病害虫防除所 7月7日\)](#)、

[平成27年病害虫発生予報第7号\(滋賀県病害虫防除所 7月22日\)](#)、

[台風第11号による被害等\(兵庫県 7月21日\)](#)、

[平成27年度兵庫県農業気象技術情報第3号\(7月情報\)について\(兵庫県農政環境部 6月30日\)](#)、[平成27年度病害虫発生予察予報第3号\(兵庫県病害虫防除所 7月22日\)](#)、

[平成27年度広島県病害虫発生予察情報予報第5号\(広島県西部農業技術指導所 7月29日\)](#)、[平成27年度病害虫発生予察情報注意報第1号\(広島県農林水産局 7月29日\)](#)、

[稲作ウェブサイトアドバイス\(No6\)\(長門農林事務所 7月21日\)](#)、

[山口農林水産ネット新着ニュース\(やまぐち農林水産ネット 7月17日\)](#)、

[平成27年度農作物病害虫発生予察注意報第2号\(山口県 7月27日\)](#)、

[気象情報に基づく技術対策・作物\(愛媛県農林水産研究所 7月2日\)](#)、[病害虫発生予報\(8月\)\(愛媛県病害虫防除所 7月30日\)](#)、

[平成27年度における水稻の生育状況\(7月9日時点\)\(高知県\)](#)、

[平成27年度農作物病害虫発生予察技術資料第3号\(高知県病害虫防除所 7月30日\)](#)

[福岡県米麦大豆生育情報\(普通期水稻の生育概況と対策\)\(福岡県農林業総合試験場 7月27日\)](#)

[注意報第1号水稻のいもち病の発生について\(福岡県病害虫防除所 7月24日\)](#)、[平成27年度病害虫発生予報第5号\(8月子報\)\(熊本県病害虫防除所 7月30日\)](#)、

[台風11号事前事後対策について\(宮崎県畜農支援課 7月14日\)](#)、[平成27年度病害虫発生予報第4号\(宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 7月27日\)](#)、

[平成27年産早期米生育状況・平成27年産宮崎県産早期米産地情報\(平成27年6月15日現在\)\(宮崎経済連ホームページ\)http://www.miyazaki-cha.jp/kome/index.html 7月6日\)](#)

[平成27年度病害虫発生予報第5号\(8月\)\(鹿児島県病害虫防除所 7月29日\)](#)

全般予報向こう1か月の天候の見通し(気象庁)

北海道地方向こう1か月の天候の見通し(札幌管区气象台)、東北地方向こう1か月の天候の見通し(仙台管区气象台)、関東甲信地方向こう1か月の天候の見通し(気象庁)、

北陸地方向こう1か月の天候の見通し(新潟地方气象台)、近畿地方向こう1か月の天候の見通し(大阪管区气象台)、中国地方向こう1か月の天候の見通し(広島地方气象台)、

四国地方向こう1か月の天候の見通し(高松地方气象台)、九州北部地方向こう1か月の天候の見通し(福岡管区气象台)、九州南部・奄美地方向こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方气象台)